

感謝込め奉仕作業

石橋公園清掃に約450人参加



炎天下のもと清掃を行う参加者ら
＝鹿児島市の石橋記念公園などで

生活する上で欠かせないもの、先人たちが残してくれた歴史を見直しながら、けがのないように作業を行って下さい」などと言葉を寄せた。

引き続き、作業区域や作業上の注意事項など説明し参加者全員で準備体操を行った後、参加者はごみ袋やほうきを手にはり、石橋記念公園、多賀山公園など一帯の清掃作業をウォークラリーを兼ねて開始。炎天下のもと約1時間半にわたって清掃作業を行い、あつという間にトラックがいっぱいになるほどごみが集まった。

また、公園の中央を流れる稲荷川でも(株)川崎塗料店の川崎真俊社長がカヌーを浮かべて清掃を行い、ビニール袋や流木などのほか発泡スチロールのプイなど引き上げていた。作業終了後は、鹿児島情報高校吹奏楽部による演奏や鹿児島市出身の吉

祥谷友歩さんのコンサートも開かれ、4日に6歳の誕生日を迎える鹿児島市郡元の瀬戸口浩彰くんと一緒に「きみの誕生日」を熱唱、参加者全員で誕生日を祝った。

また、鹿児島市中央消防署南林寺救急隊の白谷俊彦救急救命士による「水難事故や一般的な救急のときの応急手当」と題した講習会も実施され、人工呼吸や心臓マッサージなどの一般的な救命処置の手順について説明が行われた。



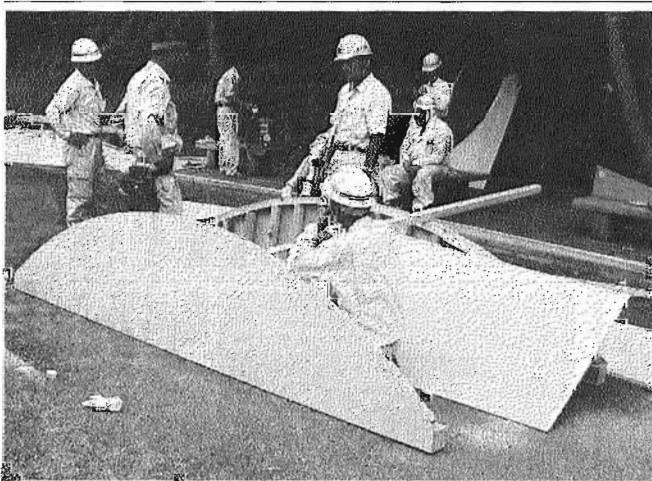
アドバイスを受けながらスケッチする子ども

「橋の日」スケッチ大会

楽しそうに石橋描く

清掃作業と合わせて実施された「橋の日」スケッチ大会は、鹿児島市内の園児や小学生など約160人が参加して行われ、「石橋のある風景画」を元気づけ描き、素晴らしい作品が多数出品された。

保護者に連れ添われた子供らは、それぞれ絵画道具を持参して同公園に集合。受付で画用紙と画板を受け取った後、市坪孝志氏(株)坪建建設社長がスケッチ大会の注意事項を説明、それぞれ描くポイントを競い合うように分散し、子供らは一斉に描き始めた。



型枠を製作する会員
＝宮之城町の北薩広域公園で

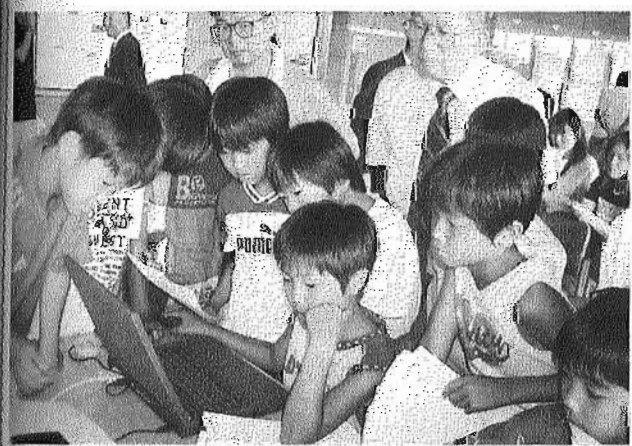
北薩造園業協会ボランティア

9日にエコアーチ橋建設

北薩造園業協会(田中高徳会長)が計画していた、薩摩郡宮之城町の北薩広域公園内で川辺町エリート2基の設置や型枠コレンガを使った県内初のアーチ橋建設が2日から始まり、3日は架設場所の床掘りと基礎コンクリート2基の設置や型枠コレンガの製作に取り掛

が多かったこともあり、後日発表される。数日かけて本部で厳選された、後日発表される。

石橋検索システムも始動 子供ら興味津々



画面をのぞき込む児童
＝鹿児島市の石橋記念館で

県地域振興公社は4日、鹿児島市の石橋記念館で新・鹿児島県石橋検索システムの始動式典を開いた。インターネットを通じて県内503カ所の石橋写真や側面図、概要などのデータを抽出でき、夏休みの自由研究の参考にと早速大勢の子供たちが詰め掛けた。

新システムは、これまで館内の特定のパソコンからしか検索できなかった県内の石橋データを個人のパソコンからも利用できるようにオンライン化(式典で

富岡忠勝県地域振興公社理事長は、「歴史ある石橋を広く知ってもらい、地域おこしや学習の場で多様に活用してほしい」と挨拶した。場所や石橋名、水系名など希望する内容に応じて抽出されたデータには、橋の写真や側面図、橋長、架設年代など16項目の概要を掲載。プリントされたデータに、詰め掛けた子供たちは「夏休みの自由研究に使ってみよう」と目を輝かせて話

かった。労力や材料はすべて会員らのボランティアによる持ち出し。

田中会長は「今回の活動では副会長の石走豊穂さん、川内繁樹さんに陣頭指揮をとってもらったことにしました。エコ・ピオアーチ・石橋架設技術習得の3点が今回の活動のテーマです」と話した。

また架設場所の小川にはメタカ、タガメ、カタヤシ、オタマジャクシ、ヤゴ(4種類)、アメンボ、カワナ、ミズスマシなども生息していることから(同会員の岡田悟南日緑化(株)工務課長調べ)、メタカ網などですくって下流(同水系)に移すなどの配慮をして工事を進めた。

完成予定は5日。9日、エコアーチ橋研究会代表の吉原進鹿児島大学教授を囲んで開通式を行う。なお現場は一般にも開放、自由に見学ができる。